

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名	国道1号 <small>ささほらやまなか</small> 笹原山中バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局						
起終点	自：静岡県三島市山中新田 至：静岡県三島市笹原新田		延長	4.3 km								
事業概要												
笹原山中バイパスは、バイパス事業区間と並行する現国道1号において、道路線形に起因した交通事故が多くみられることから、バイパスへの大型車交通の転換による安全性の向上、登坂車線の設置による走行性の向上などを図ることを目的とした事業である												
S63年度事業化		H1年度都市計画決定		H3年度用地着手		H5年度工事着手						
全体事業費	約130億円		事業進捗率	30%		供用済延長	0.0 km					
計画交通量	11,600台/日											
費用対効果分析結果	B/C	総費用		総便益		基準年						
	(事業全体) 1.5	88/150億円		232/232億円		平成20年						
	(残事業) 2.6	(事業費：75/136億円) (維持管理費：13/13億円)		(走行時間短縮便益：164/164億円) (走行費用減少便益：51/51億円) (交通事故減少便益：17/17億円)								
感度分析の結果(※2)												
残事業について感度分析を実施												
交通量変動		B/C=2.9 (交通量+10%)		B/C=2.4 (交通量-10%)								
事業費変動		B/C=2.4 (事業費+10%)		B/C=2.9 (事業費-10%)								
事業の効果等												
<ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保(走行環境の改善) 安全な生活環境の確保(交通安全性の向上) 生活環境の改善・保全(沿道環境の改善) 他9項目に該当												
関係する地方公共団体等の意見												
笹原山中バイパスは、交通の安全性確保、生活環境の改善等に重要な役割を果たすことが期待されており、三島市、三島市議会、自治会を中心に「国道1号笹原山中バイパスの整備促進」の要望を受けている												
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等												
・道路線形に課題のある箇所では交通事故が多発するとともに、依然として死亡事故等の重大事故が発生している												
事業の進捗状況、残事業の内容等												
・埋蔵文化財発掘調査継続中												
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等												
・平成20年代後半、完成2車線供用予定												
施設の構造や工法の変更等												
・橋梁延長の縮小等、構造変更によるコスト縮減を予定												
対応方針	交通安全対策事業として事業継続											
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる											
事業概要図												
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">凡 例</th> </tr> <tr> <td></td> <td>供用中</td> </tr> <tr> <td></td> <td>再評価箇所</td> </tr> </table>							凡 例			供用中		再評価箇所
凡 例												
	供用中											
	再評価箇所											

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。